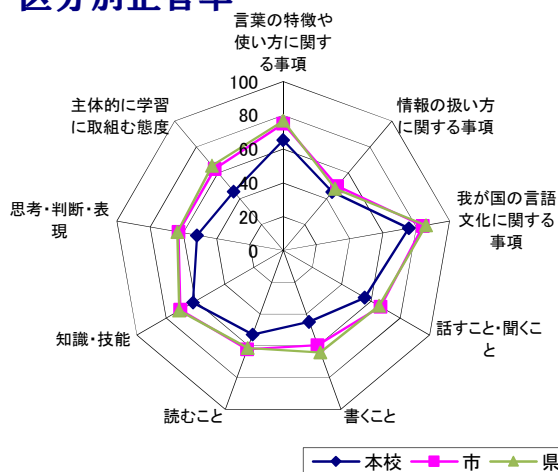


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	65.3	75.1	76.7
	情報の扱いに関する事項	45.2	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	75.5	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	55.8	66.5	65.5
	書くこと	45.0	59.6	64.2
	読むこと	52.9	62.2	61.5
観点	知識・技能	61.7	70.2	71.1
	思考・判断・表現	51.8	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	45.5	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく読む問題の正答率は93.6%で、県の正答率とほぼ同じ。 ●段落の役割について理解し、2段構成で文章を書く問題の正答率は32.7%で、県の正答率を17.1ポイント下回った。	・説明文の読み取りが不十分であると考えられることから、段落ごとに内容を一文で整理し、どのような流れや順番で説明されているのかを捉えられるようにしていく。また、教科書の例に沿って自分の説明文を短文で作る経験を積み、構成を意識できるようにしていく。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は38.2%で、県の正答率より1.3ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率は47.3%で、県の正答率を8.1ポイント下回った。	・内容を短くまとめる方法を理解できていない児童が多いことから、その手順に慣れる経験を積ませていきたい。大切な言葉を探す、必要のない文章を削る、などまとめる時の流れを説明文の学習の時に毎回取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●漢字のへんやつくりを理解していることに関する問題の正答率は75.5%で、県の正答率より10.4ポイント下回った。	・漢字の学習において、漢字を正しく書くことを重視している傾向がある。読みや熟語、その漢字のへんやつくりにも目を向けられるよう国語の授業で取り上げたり、家庭学習での漢字練習の取り組み方を工夫できるよう例を示したりしていきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は38.2%で、県の正答率より1.3ポイント上回った。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話していることに関する問題の正答率は45.5%で、県の正答率を24.4ポイント下回った。	・自分の意見は示せても理由をくわしく説明することが苦手な児童が多い。どうしてそのような意見になったのか、自分の思いを見つめて振り返る時間を設ける。また、その時に気付いたことを書き上げて整理する方法を指導することで、理由の大切さに気付かせ、書く習慣を身に付けさせていきたい。
書くこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●指定された長さで文章を書く問題の正答率は34.5%で、県の正答率を22ポイント下回った。	・長さを指定された時にどの程度まで書く必要があるのかを分かっていない児童が多いことから、まずは、基本的なルールを理解させる。その上で、文章を長く書くことが苦手な児童には文章量を増やす工夫を、文章を短く書くことが苦手な児童には文章をまとめる工夫を指導し、指定されたことに合わせる経験を積ませていく。
読むこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有しているかに関する問題の正答率は51.8%で、県の正答率とほぼ同じ。 ●叙述を基に段落の内容を捉えているかに関する問題の正答率は47.3%で、県の正答率を18.2ポイント下回った。	・文章の読み取りが個人では難しい児童が多い。国語の授業の読み取りでは、発問に関係のあるところに線を引く、発問と同じ言葉に線を引き近くの文章を読み返すなど、関係のある文章を探す方法を指導し、個人で取り組む力を高めていく。